

ひゅーまん らいつ
HUMAN RIGHTS

平成26年10月2日 第3号

人権作文優秀作品その1

各学年で1学期に書いた人権作文のうち、次の人たちの作品が優秀作品として選出され、法務局人権作文コンテストに出品されました。

学年・組	名前	題名
1年1組		同じ思いを持っている
1年2組		人を傷つけるということ
1年3組		人は誰でもできることがある
2年1組		人権を見つめなおす
2年2組		渡辺さんから学んだこと
2年2組		人権と向き合う
3年1組		今と昔 あの出来事について思う
3年2組		思いやり
3年3組		見えなくなって見えたもの
3年3組		素直な心

この中から、いくつかをこの通信で紹介したいと思います。

～「今と昔 あの出来事について思う」3年1組の生徒～

今、あの2011年3月11日に起こった事、その日から3年が経っています。私は私だけではなく、他の人の記憶の中に残っていた出来事は日に日に薄れていっているような気がします。そう、あの日、東日本大震災の起こった日のことです。

私は当時5年生でした。私の住む埼玉県は東北地方ほどの被害は受けず、何週間かすればもう元の生活に戻っていたように思えました。でも、震災の被害を受けた東北地方、特に岩手、宮城、福島は大きな被害を受けました。地震が建物を壊し、津波に襲われ、多くの家族や友達をなくした人も大勢いました。私は当時テ

レビの画面を見て、「本当に大変なことが起きている」のだという現状を知りました。さらに避難所での生活物資が不足する中での生活は想像以上に大変だったと思います。特に私の心の中に残ったのは、福島に住む人たちのことです。福島県は地震・津波の他に原発の事故がありました。やはりその近くに暮らしている人は避難を余儀なくされ、他の地域で暮らすことになった人も大勢いました。そして、その事で私が知ったこと、それは引越した土地で、引越した子がいい



めにあっているという事実です。私がこれを知ったのは、テレビの中です。だから本当はもっといろいろなことがあったのではないかと思います。鼻水や咳、くしゃみなどで、「放射能がうつる」などと言われて、いじめられている人、そんなことを平気で言う人、私はそれに激しい怒りを覚えました。それとともに私はある昔の出来事も思い出しました。

1945年8月、広島と長崎に原子爆弾が落とされました。たくさんの方が亡くなって、今でも後遺症に苦しめられている人がいるといいます。私は被爆した人がやはり何でもないので差別的な扱いをされたことを聞きました。私は本当にかわいそうだし、なぜそんなことをするのだろうという疑問の気持ちがわいてきました。

そして、今、この話と震災の話を重ね合わせると、私はひとつの思いがわいてきました。もう約70年もたつのになぜ変わらないのかということです。自分を守るために、こんなにおごいことをするなんて…。どうして何の罪もない人を自分の言葉で傷つけることができるのだろうか…。私はこのことについて考えてみました。もし自分のクラスの身近な人に被爆した人がいたとしたら、本当に自分は心の底から何の曇りもなく、その人のことを見ることができただろうかと。もし自分でもわかっているのに、周りの人がそんな行動をとっていたとしたら、果たして自分は自分の意志でその人のことを守ることができるのだろうか…。そんな不安がわいてきて、頭ではわかっているのに、行動に移せないのなら、相手を傷つけることをする人と同じではないか、そんな気がします。自分が傷つくのが嫌だから、そんなことのために相手を傷つけてしまう。何事にもそうだけれど、けしてやってはいけないことだと思います。

あの日から3年が経ちました。今の私達にできることは、「あの日を忘れない」ことだと思います。今、懸命に復興に向かって頑張っている人がいるのです。その人達とともに寄り添い、ともに歩いていくことが、いじめ・差別のない世の中を作り出す第一歩だと、私はそう信じています。



澤野さんの作品は、全国中学生人権作文コンテスト埼玉県大会にさいたま地方法務局秩父支局より出品されます。

人権標語優秀作品「3年生の部」

クラス	名前	作品
3年1組		広げよう えがお やさしさ おもいやり
3年1組		心の輪 優しい言葉で 広がるよ
3年2組		やめないの？ 自分が傷つく だけなのに
3年2組		ふみだそう あなたの勇気で いじめゼロ
3年3組		勇気だし あなたのその手を さしのべて
3年3組		ありのまま 認める心 育てよう